

『 荒れ地に花を咲かせましょう ～地域住民の交流の場の創生～ 』

阿賀 心美 木下 心 津田 愛華 矢木 柚帆 安井 隠花

指導教員 田村 統

1 研究の目的（ねらい）や意義（背景）

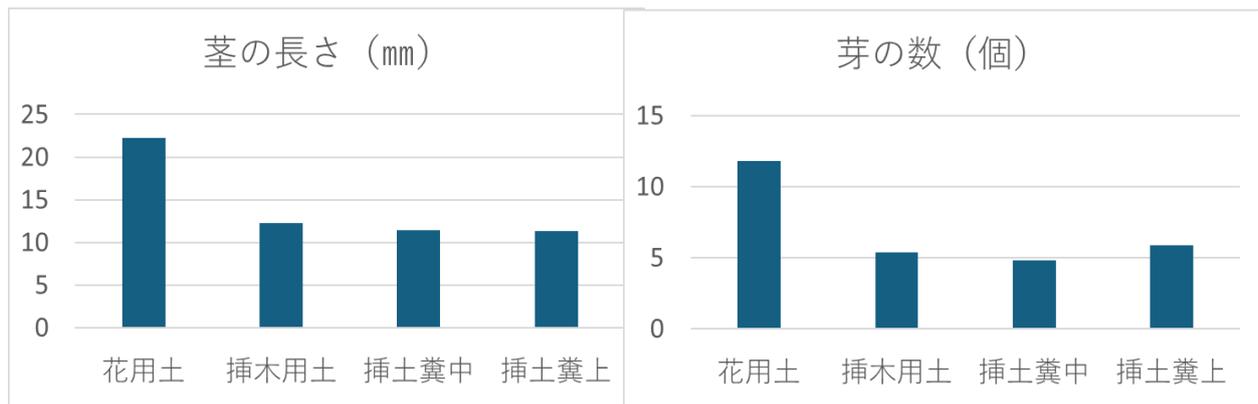
高齢化の進行する地域では、空き家や高齢者の世帯が増加している。そのため、庭に雑草が生いしげり、景観や防犯面でも課題となっている。

私たちはローコスト・ローメンテナンスの花壇づくりの技術を開発するとともに、「花と人」そして「人と人」の共生社会をつくることにした。肥料代を抑えるために、カブトムシのフンの利用を考えた。また、私たちの住む瀬戸内海地域は、少雨のため、灌水などの労力のいかに軽減するかが課題の一つである。そこで、窒素固定作用もあり、降雨時にゲル化するイシクラゲの保水効果を調べた。実際に校内の荒れ地（食堂東側）を利用して、栽培実験をしたところ、シカの食害対策も必要であることがわかった。

2 進捗状況

カブトムシの肥料効果

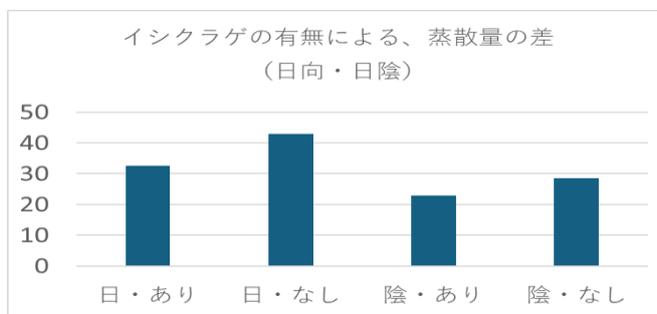
ポーチュラカを挿し木し、茎の長さや芽の数に注目して、糞の有無による成長量の比較をした。



カブトムシの糞を用土表面においても、用土に混入しても、糞による肥培効果はみられなかった。

イシクラゲの保水効果

5月30日～6月3日までの蒸発量(g)を測定した。(n=5)



雨のあたらない、日向と日陰で実験したところ、ともにイシクラゲがある場合は蒸発量が抑制されたので、保水効果はあると考えられる。

窒素固定による、土壌の富栄養化については不明である。

3 今後の展望

シカの食害耐性・耐乾性・耐貧栄養に強い植物としては、マリーゴールド・ニチニチソウ・キャットミントが候補として挙げられる。これらを使用して、食害に強い植物のコンパニオンとして有用性の実験を行いたい。